

サロンでの気づき

サロンを訪問させて頂きました。お伝えしたいと思います。何かお役に立てれば嬉しいです。

朝晩が急に寒くなっていますね。今年も我家のハナミズキが紅葉づきとても綺麗です。

体調を崩さないよう気をつけ下さい。



さて、先日、明治天皇の玄孫にあたり、数々のテレビ番組などに出演され活躍されている竹田恒泰氏の講演を聞きに行ってきました。

テーマは『日本を元気にする』どんな話をされるのか楽しみで最前列で聞きました。期待通りあつと言う間の2時間でした。話の内容を少しご紹介させて頂きます。



戦後、アメリカ(GHQ)は、豊富な物資の力で戦争には勝ったものの、『日本人の精神性の高さ』を恐れていました。

日本を弱体化するためにとった政策は、力でねじ伏せるのではなく、日本人としての誇りを捨てさせるために『神話や歴史を教えない』という学校教育を大きく変えることでした。

竹田氏は、今、元気のない日本を元気にするには、テクニックではなく、『他の民俗ではない、日本人が持っている精神性の高さを大切にし、一人々々が行動していくことが源となる』と言われました。日本人の精神性の高さは『世のために生きる』という生き方です。日本人が太古の昔から実践してきたことです。労働に対する考え方の違いです。日本人にとって働くことは喜びであり、幸せそのものです。日本人は昔から、仕事を『金銭を得る手段』とは考えませんでした。もちろん仕事をした結果、金銭を得るのですが、それは『結果』であって『目的』ではないのです。

一例として竹田氏は『日本人捕虜が建設した奇跡の劇場』の話を紹介されました。

1947年に完成したウズベキスタンのオペラ劇場：

ナヴォイ劇場は、旧ソ連では世界3大オペラ劇場と呼ばれるほどこの劇場建設には500人の日本人が携わっていたといふ。



1945年、第二次世界大戦が終戦した。60万人がシベリアに強制連行され捕虜となる。

当時、ソ連だったウズベキスタンでも2万5千人の日本人が強制労働を課せられた劣悪な労働環境、零下30度を下回る極寒の地で寒さに震えながら凍った木を切り出す。決められたノルマを果たさなければ食べ物すら与えられない。

長時間の労働に加え、飢えとの戦い。

過酷な強制労働にも関わらず日本人捕虜たちは手を抜かず仕事を全うしたといふ。

それよりも彼らは工場や運河など建設不可能と思われていた施設を次々と建設していく。

真面目に働き続ける日本人捕虜の姿に現地人たちは次第に心を惹かれていった。

1945年、ナヴォイ劇場の建設が開始。

この大規模なプロジェクトには500人の日本人捕虜が建設にあたった。作業は過酷を極め79人の日本人捕虜が作業中に亡くなった。しかし日本人捕虜は手の抜く事なく作業を続けた。そんな彼らにはある合言葉があったといふ。それは「日本に必ず帰つてもう1度桜を見よう」クレーンなどはなく手作業だったにも関わらず驚異的な速さで作業は進んでいき、3年はかかるだろうと思われた作業が、わずか2年足らずで劇場は完成した。

与えられた仕事をやればいいという強制労働だったにも

※裏面に続く

関わらず、細部の彫刻に至るまで手の込んだ作りにするなど、日本人としての誇りをもつて作った完璧な出来栄え。

劇場が完成してから20年後…1966年に起きたタシュケント大地震、市内では78000棟が倒壊する大惨事、未曾有の大災害。しかし、日本人が建設した建物は倒壊する事はなかった。

ナヴォイ劇場は無傷だったため、市民たちの避難場所として多くの命を救った。

日本人捕虜の真面目な仕事ぶりはウズベキスタン国民の心を打ち、

「日本人のように真面目な子になりなさい」と子供たちに教えた。

1996年、カリモフ大統領が劇場建設に関わった日本人を称えるプレートを設置。

大統領はプレートを作成する時、「彼らは恩人だ間違っても捕虜と書くんじゃない」と指示したそうです。



このような日本人の仕事に対する考え方、自分の命は、自分だけの命ではなく、自然、祖先から『いただいた命』であるという思いが根底にあるからです。だから『自分のため』ではなく『世のため人のために』命を使っていくことが、幸せ、喜びにつながっていくのだと思います。

以上、竹田氏の講演を聞いて、私は日本人に生まれて来たことに感謝し、いただいた命を大切に、世のため人のために少しでも役立って行きたいと思います。



10月6日カードの最終戦に行ってきました。巨人に敗れ、残念ながら今年も3位に終わりましたが、来年は24年ぶりのリーグ優勝、日本一を勝ち取ってもらいたいと思います。



【今月のオススメ本】

今月は、仕事観に関わる本を紹介させていただきます。



竹田 恒泰著
『日本人が一生使える勉強法』

「はじめより」より抜粋

ほとんどのビジネス書は「西洋的な価値観」を基に書かれています…。しかし私がこれまで書いた本の中でお伝えしてきたとおり、日本と西洋の価値観は根本的に異なります。…西洋式メソッドを実践しようとしたときになぜか違和感を覚えるのは、当然といえば当然なのです。

出光 佐三著
『日本人にかえれ』

1971年6月20日に初版の本です。百田尚樹著「海賊と呼ばれた男」のモデルになった出光佐三氏が戦後の日本復興を左右する若き青年達に熱く語った本です。40年前と今では時代が大きく変わりましたが、出光氏の仕事観、人生観

は現代社会にも通じるものと思います。日本人が長い歴史の中で大切にしていた精神に気づかせてくれる本です。



出光 佐三著
『日本人にかえれ』

田舎のパン屋を独立開業した著者の生き方は、美容の世界と通じるものがあるのではないでしょうか。岡山駅から2時間以上、蒜山高原の麓の古い街道筋の美しい集落の勝山で、築百年超の古民家に棲む天然酵母と自然栽培の小麦でパンを作るパン職人・渡邊格氏が実践している静かなる革命「腐る経済」。

この本をお求めになりたい方はお申し付け下さい。商品と一緒に届けさせていただきます。
※お届けまでに少し時間がかかることがあります。ご了承下さいませ。